

スキンテアに対する認知度向上と正しい知識の習得

～今後の予防的ケア介入へ繋げるために～

5階東病棟○土工初音 篠原美咲 長沼美代子 矢野珠美 中村咲貴 園田恭子 満永亜由美

【目的】

朝倉地域の高齢化率は全国平均より高い。当院は地域支援病院で、高齢者の受け入れも多い。高齢者は皮膚が乾燥しやすく、低栄養状態になりやすいため皮膚は脆弱となり、スキンテアや褥瘡のリスクを伴う。スキンテアとは「摩擦・ずれによって、皮膚が裂けて生じる真皮深層までの損傷（部分損傷）をスキン-テア（皮膚裂傷）とする。」¹⁾と定義されている。当病棟では褥瘡発生リスクのある患者に対しては、入院時からエアマットの使用など予防的介入を行っているが、スキンテアは発生後の介入となっている。スキンテア発生時は専任・認定看護師に対策を教示してもらっている。そこで、入院時から病棟でも予防ケアが実施できるように、スキンテアに対する知識を習得することで、看護の質の向上を図れるよう研究に取り組んだ。

【方法】

当病棟におけるスキンテアリスク患者の実態調査、スキンテアに対する知識習得を目的とした勉強会の実施を行った。実態調査は2019年9月1日～10月30日に入院・転入した患者（小児を除く）を対象に実施。スキンテアリスクアセスメント用紙を使用し、ハイリスク患者の抽出を行った。勉強会は小グループ制で数回に分け、2019年11月中旬～12月上旬に5階東病棟スタッフを対象に実施した。その前後でスキンテアについての理解度を確認するためのアンケートを行い、結果を比較した。

【結果】

実態調査期間中に入院となった175名中、124名がスキンテアハイリスク患者であった。当病棟のスキンテアの要因は個体要因では加齢、外力発生要因では医療用テープの貼付が多かった。実態調査中にスキンテアを発生した患者が4名、持ち込み患者が5名であった。勉強会前後でアンケートを実施した結果、スキンテアの要因については、勉強会前は褥瘡の要因である骨突出・湿潤・圧迫・るい瘦と混同する人が多かった。しかし、勉強会後はスキンテアの要因である不随運動・長期ステロイド薬使用・抗がん剤使用歴・日光暴露歴を選択するスタッフが増えた。予防ケアについての理解も42.1%から78.9%に増加した。

【考察】

実態調査を行った結果、70.8%と多くの患者にスキンテアのリスクがあった。真田は「現在、医療従事者はこのような損傷を目にしてもスキン-テアであるという認識が乏しく、加えてスキン-テアのケアに関する指針がないため、予防や発生時の対応に難渋しています。」²⁾と述べている。このことから、スキンテアについての知識の習得は必要といえる。また、スキンテアについての理解を深め、予防ケアに取り組んでいくことの重要性を再認識することができた。勉強会後には、スタッフから「具体的な予防ケアを知ることができてよかった」「テープ類は注意して剥がすようになった」などの声が聞かれ、スキンテアの予防に繋がる契機となった。しかし、予防ケアの習得にまでは至らなかったため、今後も勉強会の実施や情報提供を継続し、スタッフが予防ケアを習得し、自発的に介入できるよう取り組んでいきたい。

【引用文献】

- 1) 真田博美:ベストプラクティススキンテア（皮膚裂傷）の予防と管理,一般社団法人日本創傷・ネオストミー・失禁理学会, P6, 2015.
- 2) 真田博美:ベストプラクティススキンテア（皮膚裂傷）の予防と管理,一般社団法人日本創傷・ネオストミー・失禁理学会, P1, 2015.